

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)		指標名：利用回数				指標の求め方：施設の年間利用回数									
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)		指標名：利用者数				指標の求め方：施設の年間利用者及び来館者数計									
		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期	
		第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合計 合計
指標	活動指標 1 (単位/回/年)	計画値 2,410	2,450	2,490		2,670	2,530	2,570		2,650	2,690	2,730	2,770		
		実績値 1,569	2,506	2,596											
指標	成果指標 1 (単位/人/年)	計画値 59,270	59,370	60,470		61,570	62,715	63,820		64,920	66,020	67,120	68,260		
		実績値 24,782	44,789	50,539											
事業 評価 内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)				上がっている										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)				変わらない										
	総合評価				良好である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 新型コロナウイルス感染症の影響により、各指標は計画値を大きく下回った。活動自粛や臨時休館、更には感染症防止対策等の制約がある中、指定管理者が工夫を凝らした自主事業を展開することによって、市街地への経済波及効果と市民への新たな芸術文化意識が醸成され、賑わい交流拠点が形成されるよう施設の管理環境を整備した。	自己分析： 新型コロナウイルス感染症対策が進み臨時休館することなく運営でき、活動指標は計画値を達成した。外出控えや利用控えが見られる中、成果指標は計画値に及ばなかったものの、利用者が回復し、昨年度を大きく上回った。	自己分析： 新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、様々な活動が平常時に戻ってきたことにより活動指標は計画値を達成した。成果指標は計画値に達しなかったが、前年度を上回り、日常的な賑わいや市街地への経済波及効果、市民の新たな芸術文化意識の醸成に繋がっている。	判断理由： 新型コロナウイルス感染症の影響により各指標が計画値に及ばない時期もあったが、感染症対策環境の整備や指定管理者の工夫により回復傾向にあり、賑わい交流拠点の形成に一定の成果があった。効率性についても大きく変化していないことを踏まえ、総合評価を「良好である」とした。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
今後の方向性				現状のまま継続											
方向性の判断理由改善、改革の内容(R5、R8、R10)	R5： 新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休館等により利用者数及び来館者数が落ち込んだ時期もあったが指定管理者の工夫により回復傾向にある。令和5年度に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に引き下げられたことに伴い、コロナ前同様に施設も稼働していくことが考えられる。市内外からの評価は高く、事業も定着していることから、現在の施設機能を維持していく必要があるため「現状のまま継続」とする。				R8：				R10：						

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)			指標名：利用回数				指標の求め方：施設の年間利用回数									
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)			指標名：施設設備の故障による使用不能回数				指標の求め方：施設設備の故障による使用不能回数									
指標	計画値 (単位/回)	実績値	第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期 総合計画 合計	
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)		実施4カ年 合計
活動指標 1 (単位/回)	計画値 2,410	実績値 1,569	2,410	2,450	2,490		2,140	2,530	2,570		2,650	2,690	2,730	2,770		
成果指標 1 (単位/回)	計画値 0	実績値 0	0	0	0		0	0	0		0	0	0	0		
事業 評価 内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない										
	総合評価					良好である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 指定管理者との連携・協議して、当初より計画していた南側駐車場や防災設備の改修の他にも適宜、ボイラー関連の配管やポンプの修繕を行い、施設利用者が安全・安心に活用できるよう施設の環境の維持・保を図った。新型コロナウイルス感染症の影響により活動自粛や臨時休館を行ったため、活動指標は計画値を大きく下回った。成果指標は計画値を達成した。	自己分析： 新型コロナウイルス感染症対策が進み臨時休館することなく施設を運営し、活動指標は計画値を達成した。指定管理者と連携・協議して計画的な改修を行ったほか、舞台設備やボイラー施設の緊急的な修繕を行い、施設の維持・保を図り成果指標は計画値を達成した。	自己分析： 新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、様々な活動が平常時に戻ってきたことにより活動指標は計画値を達成した。指定管理者と連携・協議を行い計画的な改修を行ったほか、空調設備の緊急的な修繕を行い、施設の維持・保を図ったため、成果指標は計画値を達成した。	判断理由： 活動指標・成果指標ともに計画値を達成し、安心・安全に活用できる施設環境を維持・保することにより一定の成果があった。効率性についても大きく変化していないことを踏まえ、総合評価は「良好である」と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
今後の方向性					現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 建設後16年が経過し、主要施設設備・建物に係る大規模改修を行う必要がある。指定管理者との連携・協議を行いながら施設設備の現状を随時把握し、計画的に改修できるよう「現状のまま継続」とする。				R8：				R10：							

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：利用回数	指標の求め方：施設の年間利用回数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：施設設備の故障による年間不能回数	指標の求め方：施設設備の故障による年間不能回数

		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期 総合計画 合計
		第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	
指標	活動指標 1 (単位/回/年)	計画値 2,410	2,450	2,490		2,670	2,670	2,670		2,650	2,690	2,730	2,770	
		実績値 1,569	2,506	2,596										
成果指標 1 (単位/回/年)	計画値	0	0	0		0	0	0		0	0	0	0	
	実績値	0	0	0										
事業 評価 内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されている									
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)				変わらない									
	事業の効率性 (事業費に対する成果)				変わらない									
	総合評価				良好である									
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 指定管理者との連携・協議して、計画していた大ホールのワイヤレスマイクの更新等を行い、施設利用者が安全・安心に活用できるよう施設の環境の維持・保全を図った。 新型コロナウイルス感染症の影響により活動自粛や臨時休館を行ったため、活動指標は計画値を大きく下回った。成果指標は計画値を達成した。	自己分析： 新型コロナウイルス感染症対策が進み臨時休館することなく施設を運営し、活動指標は計画値を達成した。指定管理者と連携・協議して計画的な備品整備を行い、施設の環境維持・保全を図り成果指標は計画値を達成した。	自己分析： 新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、様々な活動が平常時に戻ってきたことにより活動指標は計画値を達成した。指定管理者と連携・協議を行い計画的な備品整備を行い、施設の環境維持・保全を図ったため、成果指標は計画値を達成した。	判断理由： 活動指標・成果指標ともに計画値を達成し、安心・安全に活用できる施設環境を維持・保全することに一定の成果があった。効率性についても大きく変化していないことを踏まえ、総合評価は「良好である」と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：
今後の方向性				現状のまま継続										
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 建設後16年が経過し、主要設備・備品の更新を行う必要が生じてきている。指定管理者との連携・協議を行いながら備品の現状を随時把握し、計画的に更新できるよう「現状のまま継続」とする。				R8：				R10：					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：交付金額(砂川市民文化祭実行委員会交付金)	指標の求め方：交付金額(砂川市民文化祭実行委員会交付金)
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：市民文化祭市民参加率	指標の求め方：(出演・発表者数+鑑賞者数)/住民基本台帳人口(3月末)×100

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期 総合計画 合計
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	
指標	活動指標 1 (単位/円)	計画値 実績値	324,000 0	324,000 324,000	324,000 324,000		324,000 324,000	324,000 324,000	324,000 324,000		500,000 324,000	324,000 324,000	324,000 324,000	324,000 324,000	
	成果指標 1 (単位/%)	計画値 実績値	15.0 -	14.5 6.3	14.5 7.8		14.0 14.0	14.0 14.0	13.5 13.5		13.5 13.0	13.0 13.0	13.0 13.0	12.5 12.5	
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている									
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない									
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					少し上がっている									
	総合評価					良好である									
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 事業の実現はできなかったが、実行委員会組織の各構成団体から選出される役員を中心として開催されており、それなりに砂川市の文化活動を活性化に寄与している。	自己分析： 令和元年度以来の通常開催を行った。令和元年度と比較すると、発表者、鑑賞者は減少したものの、新型コロナウイルス感染症の拡大対策や事業企画を文化活動を行っている団体で組織する実行委員会が主体的に運営を行いつつ、市民に文化活動に触れる機会を提供することができたこと、それなりに実績が上がっている。	自己分析： 活動指標は計画値を達成し、当初の予定通りの交付金額となった。成果指標は計画値に達しなかったものの、前年度と比較すると発表者数、鑑賞者数ともに増加し、実行委員会が主体的に運営を行いつつ、市民へ文化活動に触れる機会を提供することができた。	判断理由： 令和元年度以来の通常開催を行った。令和元年度と比較すると、発表者、鑑賞者は減少したものの、新型コロナウイルス感染症の拡大対策や事業企画を文化活動を行っている団体で組織する実行委員会が主体的に運営を行いつつ、市民に文化活動に触れる機会を提供することができたことから、「良好である」と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
今後の方向性					現状のまま継続										
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 実行委員会が主体的に活動し、経費が限られるなどの制約の中、より良い方法・手段を検討して、参加者(出場・出展・鑑賞者)も楽しみながら芸術文化の振興を図る事業として実施されており、「現状のまま継続」とした。				R8：				R10：						

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：補助金額	指標の求め方：補助金額
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：文化協会加盟団体合計会員数	指標の求め方：文化協会加盟団体合計会員数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期		
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合計 合計	
指標	活動指標 1 (単位/円)	計画値 実績値	588,000 231,200	588,000 214,100	588,000 408,844		588,000	588,000	588,000		588,000	588,000	588,000	588,000			
	成果指標 1 (単位/人)	計画値 実績値	170 -	170 131	160 131		160	150	150		140	140	130	130			
事業 評価	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				ほぼ達成されている											
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				あまり上がっていない											
		事業の効率性 (事業費に対する成果)				上がっている											
		総合評価				良好である											
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 砂川市文化協会が主催し事業を実施することで、市民文化の振興を図ることができ、文化協会の役割を明確化することにつながった。また、市民の参加も得られ、市民文化の振興のための意識付けにつながっていることから、一定程度目的を満たす実績は上がってきているものと判断する。	自己分析： 砂川市文化協会が主催し事業を実施することで、市民文化の振興を図ることができ、文化協会の役割を明確化することにつながった。また、市民の参加も得られ、市民文化の振興のための意識付けにつながっていることから、一定程度目的を満たす実績は上がってきているものと判断する。	自己分析： 活動指標・成果指標ともに計画値に達しなかったが、砂川市文化協会が主催する事業を支援することで市民文化の振興を図るとともに、文化協会の役割を明確化することに繋がった。	判断理由： 砂川市文化協会が主催し事業を実施することで、市民文化の振興を図ることができ、文化協会の役割を明確化することにつながった。また、市民の参加も得られ、市民文化の振興のための意識付けにつながっていることから、一定程度目的を満たす実績は上がってきており、「良好である」と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
今後の方向性				現状のまま継続													
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 文化協会の活動を支援する事業として必要であり、砂川市の芸術・文化振興を図る取組について、文化協会と協議しながら事業内容を検討していくことから、「現状のまま継続」とした。					R8：					R10：						

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：市史編さん委員会	指標の求め方：市史編さん委員会開催数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：市史編さん進捗状況	指標の求め方：市史編さん進捗状況

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期 総合計画	
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合 合計
指標	活動指標 1 (単位/回)	計画値 実績値	3 3													
	成果指標 1 (単位/%)	計画値 実績値	100 100													
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					上がっている										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					上がっている										
	総合評価					極めて良好である										
	評価内容		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 令和3年4月26日、令和3年10月25日、令和4年3月18日に砂川市史編さん委員会を開催し、市史の最終校正及び完成、頒布、寄贈について協議した。当初の計画の通り令和3年度中の完成を迎え、進捗状況であり良好と判断する。	自己分析：	自己分析：	判断理由： 当初の計画の通り令和3年度中に完成することができ、頒布も予定通り完了したため「極めて良好である」とした。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：
今後の方向性					完了											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)			R5： 当初の予定通り令和3年度中に完成し、予定していた頒布も完了していることから「完了」とした。			R8：					R10：					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名: ①指定文化財情報提供回数 ②文化財保護	指標の求め方: ①指定文化財情報提供回数をカウント ②文化財保護審議会開催回数をカウント
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名: 文化財関連事業市民参加率	指標の求め方: 文化財関連事業市民参加者数/住民基本台帳人口(3月末)×100

指標	計画値 実績値	第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期 総合計画 合計
		第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	
活動指標 1 (単位/①回、 ②回)	計画値 実績値	①3、②2 ③2、②1	①3、②2 ①2、②2	①3、②2 ①1、②1		①3、②2	①3、②2	①3、②2		①3、②2	①3、②2	①3、②2	①3、②2	
成果指標 1 (単位/%)	計画値 実績値	1.76 -	1.74 0.08	1.71 0.04		1.68	1.65	1.62		1.59	1.56	1.53	1.50	
事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					ほぼ達成されている									
事業の成果 (成果指標をもとに評価)					あまり上がっていない									
事業の効率性 (事業費に対する成果)					少し上がっている									
総合評価					良好である									
事業 評価	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析: 市の指定文化財である「街頭もちつき」は、砂川もちつき保存会により活動、保存されており、令和3年度は実施に至らなかったが、年末の街頭もちつき、北海道義士祭などの活動がある。郷土に対する認識や文化財に対する理解をそれなりに深める機会となっている。	自己分析: 市の指定文化財である「街頭もちつき」は、砂川もちつき保存会により活動、保存されており、令和4年度は実施に至らなかったが、年末の街頭もちつき、北海道義士祭などの活動がある。郷土に対する認識や文化財に対する理解をそれなりに深める機会となっている。	自己分析: 市の指定文化財である「街頭もちつき」は、砂川もちつき保存会により活動、保存されており、令和5年度は実施に至らなかったため活動指標、成果指標ともに計画値を達成しなかった。実施に至った際には、年末の街頭餅つきや北海道義士祭での活動など、郷土に対する認識や文化財に対する理解を深める機会となると考えている。	判断理由: 市の指定文化財である「街頭もちつき」は、砂川もちつき保存会により活動、保存されており、令和4年度は実施に至らなかったが、年末の街頭もちつき、北海道義士祭などの活動がある。郷土に対する認識や文化財に対する理解をそれなりに深める機会となっており、「良好である」と判断した。	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:
	今後の方向性				現状のまま継続									
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5: 指定文化財保存のためには保持団体活動の継続が必要であることから、連携体制を密接にして会員数維持などに努めていく。また、文化財保護審議会委員として活動の充実を図っていくため、文化財に対する理解を深めていく必要があり、「現状のまま継続」とした。				R8:				R10:				

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名: 史跡標柱・開拓記念碑等の数	指標の求め方: 史跡標柱・開拓記念碑等の数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名: 史跡標柱・開拓記念碑の巡回点検等回数	指標の求め方: 史跡標柱・開拓記念碑の巡回点検等回数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期 総合計画 合計
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	
指標	活動指標 1 (単位/基)	計画値 実績値	21 21	21 21	21 21		21 21	21 21	21 21		21 21	21 21	21 21		
	成果指標 1 (単位/回)	計画値 実績値	3 3	3 3	3 3		3 3	3 3	3 3		3 3	3 3	3 3		
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)				変わらない										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)				上がっている										
	総合評価				良好である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析: 定期的に史跡標柱・開拓記念碑等の点検を行い、状態を把握し必要な保護及び軽微な補修を行い、計画していた史跡・標柱の修繕も実施できたことから、一定程度事業目的を達成できたものと評価する。	自己分析: 定期的に史跡標柱・開拓記念碑等の点検を行い、状態を把握し必要な保護及び軽微な補修を行い、計画していた史跡・標柱の修繕も実施できたことから、一定程度事業目的を達成できたものと評価する。	自己分析: 定期的に史跡標柱・開拓記念碑等の点検を行い、状態を把握し必要な保護及び軽微な補修を行い、計画していた史跡・標柱の修繕も実施できたことから、一定程度事業目的を達成できたものと評価する。	判断理由: 定期的に史跡標柱・開拓記念碑等の点検を行い、状態を把握し必要な保護及び軽微な補修を行い、計画していた史跡・標柱の修繕も実施できたことから、「良好である」と判断した。	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	
今後の方向性				現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5: 定期的な点検を行い、史跡記念碑・標柱等の状態を十分把握するとともに、補修や冬場の養生など必要な管理を行い、可能な限り長く状態が維持されるよう努めていくとともに、計画的に修繕を推進することが必要であることから、「現状のまま継続」と判断した。				R8:				R10:						

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：補助金額(郷土研究会補助金)	指標の求め方：補助金額(郷土研究会補助金)
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：郷土研究会会計会員数	指標の求め方：郷土研究会会計会員数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期	
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合計 合計
指標	活動指標 1 (単位/円)	計画値 実績値	155,000 154,800	155,000 154,800	155,000 154,800		155,000	155,000	155,000		155,000	155,000	155,000	155,000		
	成果指標 1 (単位/人)	計画値 実績値	13 14	13 14	12 14		12	12	11		11	11	10	10		
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					上がっている										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					上がっている										
	総合評価					良好である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 郷土研究会の中心活動である研究誌の印刷製本費を助成しており、市の郷土史等を後世に残す貴重な資料として位置づけられるものとなっていることから、目的を満了実績は一定程度上がっているものと判断する。	自己分析： 郷土研究会の中心活動である研究誌の印刷製本費を助成しており、市の郷土史等を後世に残す貴重な資料として位置づけられるものとなっていることから、目的を満了実績は一定程度上がっているものと判断する。	自己分析： 活動指標・成果指標ともに計画値を達成し、郷土研究会の中心活動である研究誌の印刷製本費を助成することで、市の郷土史等の貴重な資料を後世に残す活動の後押しに繋がっている。	判断理由： 郷土研究会の中心活動である研究誌の印刷製本費を助成しており、市の郷土史等を後世に残す貴重な資料となっていることから、「良好である」と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
今後の方向性					現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 郷土研究誌は、郷土史を後世に伝えるために重要な資料であるとともに、郷土研究会の運営面においても主要な事業として機能していることから、教育委員会としても側面的な支援を行うため、「現状のまま継続」とした。					R8：					R10：					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：年度内に収集した資料数	指標の求め方：年度内に収集した資料数をカウント
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：郷土資料室利用者市民利用率	指標の求め方：郷土資料室利用者数/住民基本台帳人口(3月末) × 100

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期 総合計 合計
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	
指標	活動指標 1 (単位/点)	計画値 実績値	50 106	50 426	50 628		50	50	50		50	50	50	50	
	成果指標 1 (単位/%)	計画値 実績値	10 3.5	10 5.7	10 6.5		10	10	10		10	10	10	10	
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている									
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない									
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					上がっている									
	総合評価					良好である									
	評価内容	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 1日当たりの利用者は令和2年度より1人減少しているが、小学校の団体見学など教育資料として有効な利活用が図られていて、一定の実績が上がっている。ボランティアについては、郷土資料室に関連する事業の情報提供を行い、協力を呼び掛けるなど、郷土資料室活動に気軽に参加できている。	自己分析： 1日当たりの利用者は令和3年度と変わらないが、小学校の団体見学など教育資料として有効な利活用が図られていて、一定の実績が上がっている。ボランティアについては、郷土資料室に関連する事業の情報提供を行い、協力を呼び掛けるなど、郷土資料室活動に気軽に参加できている。	自己分析： 1日当たりの利用者は令和4年度と変わらないが、小学校の団体見学など教育資料として有効な利活用が図られていて、一定の実績が上がっている。ボランティアについては、郷土資料室に関連する事業の情報提供を行い、協力を呼び掛けるなど、郷土資料室活動に気軽に参加できている。	判断理由： 1日当たりの利用者は令和3年度と変わらないが、小学校の団体見学など教育資料として有効な利活用が図られていて、一定の実績が上がっている。ボランティアについては、郷土資料室に関連する事業の情報提供を行い、協力を呼び掛けるなど、郷土資料室活動に気軽に参加できている。」「良好である」と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：
	今後の方向性					現状のまま継続									
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 魅力のある資料室となるよう展示資料の入れ替えや作成、さらには郷土資料室内展示の改修を検討していく。小学校等の団体見学に利用されており学習教材として利用されている。視聴覚ライブラリーや郷土資料室に保存・収集している映像や音声資料のうち、郷土資料として後世に残すべき資料を選別してデジタル化し、適切に管理・保存し活用する。収蔵場所の狭隘化の対策として、引き続き資料の整理を進めることから、「現状のまま継続」と判断した。				R8：				R10：				